

「極楽から吹く風」

柔らかな春の風に乗って、ほのかな花の香りが漂う季節になりました。

松尾芭蕉に「春風はるかぜに 吹き出し笑うふだわら 花もがな」という俳句があります。

「笑う」とは、蕾つぼみが開いて花が咲く様子を笑顔に喩えた言葉です。

心地よい春の風につられて、こらえきれず思わず笑ってしまうように、蕾もほころんで花を咲かせればいいのにと、春の風に心が明るくなることを詠んだ俳句です。

春分の日を中日とする前後一週間、春のお彼岸の頃に吹く西風を「彼岸西風」と呼びます。

彼岸とは、悟りの世界である極楽浄土のことです。

柔らかな春の風に身も心も安らぐ時、「この風の心地よさは、きっと極楽浄土から吹いてきたからだろう」と受け止めているところに、極楽浄土に憧れる信仰心の深さと感受性の豊かさをうかがい知ることができます。

極楽浄土では、どのような風が吹いているのでしょうか。

浄土宗で拠り所としている經典の一つ『無量寿経』には、「極楽浄土に吹く風は、寒からず暑からず、程よい暖かさや涼しさで、弱くもなければ強くもない。その風は極楽浄土の樹々を揺らして奥深い仏法をあらわす音を響かせ、芳しい香りの美しい花びらを舞い散らせる。またその風を身に感じたならば、煩惱の火が消え、心が澄み渡る」と説かれています。

阿弥陀様は「南無阿弥陀仏」と称える者を、苦しみがなく安らかで、悟りに到るための理想的な環境が整った極楽浄土にお救いくださる仏様です。

また、極楽浄土はこの世でお別れした大切な方との再会を喜ぶ世界でもあります。

極楽浄土から風が吹いてきたなら、きっと阿弥陀様やこの世でお別れした方々から「極楽浄土に救われることを願い、南無阿弥陀仏と称えてほしい」というあなたへの想いが乗っていることでしょう。

春の風に心地よさを感じた時、この風は極楽浄土から吹いてきた風だと喜び、共に笑顔の花を咲かせてお念仏に励んでまいりましょう。

南無阿弥陀仏